

いくな
かい
生名ロマンの会

～ボランティアでつくろう「生名ロマン街道」～



ボランティアによるイベント準備



勝浦さくら祭り・船下り



生名ロマン街道を走るトロッコ列車

経緯

- 生名区老人会等の人々が子々孫々のためにと植栽した桜(生名谷川両岸総延長約2km)が、40年以上経過し、大きく美しく成長。
- 平成15年両岸の道路を「ふれあいロマン街道」と命名し公園化。
- 桜の美しさと自然の恵みをアピールし、環境保全、地域コミュニケーション、安らぎの名所として地域の活性化活動を開始。

取組内容

- 平成16年から、3月25日～4月10日の日程で「勝浦さくら祭り」を開催し、規模を拡大しながら各種イベントを実施。
- 生名ロマン街道、生名谷川の清掃と草刈り、桜のせん定等を実施し、桜と街道の安全を確保するとともに、高齢者の活躍と地域コミュニケーションの活性化を図る。
- 町内外のボランティア等を受け入れ、地域間交流や町の活性化活動を実施。

活動の効果

- 桜と各種イベントにより、国内外合わせて3万人の来場者数となり、町内の文化経済に大きな影響を与える。
- 町内外の各種団体、学校のほか徳島市内の大学等から、1日100人を超えるボランティアの参加により、地域コミュニケーションが活性化。
- 生名ロマン街道での清掃と草刈り、生名谷川の清掃活動を年3回実施するとともに、隔年での桜のせん定等により、環境・景観保全に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

都市との地域間交流を更に促進するとともに、アフターコロナのインバウンド市場と国内へのアピールを強め、地域の活力強化に寄与したい。また、「生名ロマンの会」の後継者育成にも力を注ぐ。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡勝浦町大字生名 Tel:090-8970-6728

えぬびーおーほうじん

あわかつうらいどぼたじゆく

NPO法人 阿波勝浦井戸端塾

～グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり～



2023ビッグひな祭り会場



ひな祭り会場の恐竜資料展示

経緯

- 勝浦町は、基幹産業である温州みかんが昭和56年の寒凍害による壊滅的な被害を受け、長年に渡りひっ塞する状態が続く。
- ふる里勝浦の再発見と町の活性化を目指し、平成3年「新とくしま県民運動推進事業」の認定を受け、同年8月に「勝浦町・地域づくり井戸端塾大会」を開催し、活動を開始。

取組内容

- 家庭で飾られなくなった雛人形を全国から集め、供養して飾る「ビッグひな祭り」を開催。ピラミッド型ひな壇100段に、約3万体の雛人形が並ぶ全国的なイベント。
- 2016年リオデジャネイロオリンピック、2020東京オリンピックの会場周辺施設で雛人形を展示。
- 平成6年、町内で恐竜の化石が発見されたことを契機に「恐竜の里づくり」に取り組むほか、徳島県が行う発掘作業を後方支援。

活動の効果

- 「ビッグひな祭り」の開催や「恐竜の里づくり」の取組により、町が活性化。
- 「ビッグひな祭り」は、全国的に有名なイベントで、同様のイベントが各地に広がっている。また、雛人形を30か国以上の国々に贈り、文化交流に貢献。
- 「恐竜の里づくり」の取組では、「恐竜ウォークラリー」を子供たちに恐竜をアピールするイベントとして継続開催。
- コロナ禍でも開催したが、団体客や高齢者施設等からの入場者が皆無で、入場者は通常開催の5割程度に落ち込む。令和4年度にはコロナも落ち着き、入場者が増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

コロナも落ち着き始め、観光・交流の活発化に向けて動き出した中で、「ビッグひな祭り」再興に向けてイベントを創造しながら、インバウンドの復活を目指す。また、周辺の道の駅や産直市とも連携しながら交流人口の増加を目指したい。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35-1 Tel:0885-42-4334

とくていひえいりかつどうほうじん けい ふれんず

特定非営利活動法人 K-Friends

～山あいの農産物・知恵・仲間を集めて～



みかん収穫体験&ウォーキングスポーツツーリズム



阿波かつうらブランド品



商品マークとクラブイメージを統一

経緯

- 生涯スポーツの振興を担う地域総合型スポーツクラブとして活動。
- 健康づくりに欠かせない要素にスポーツ×食(食育&地産地消)があるとの思いと、地域の活性化とSDGsの実現を目指す。
- 農産物加工施設の指定管理者受託をきっかけに6次産業化に取り組み、地元産みかんや野菜等を使って商品化。

取組内容

- 総合型地域スポーツクラブが6次産業化に取り組み、半年間で販売までに至る。
- スポーツツーリズムで地域活性化を図るため、地元みかん農家と連携し「かつうらみかん満喫ウォーキング」を開催。
- 「山あいの町を出た子らに、ふるさとの味を届けたい」思いと、「地元の食材や農産物の活用」を進めるため、商品の開発・製造・販売を実施。

活動の効果

- スポーツツーリズムイベントの「かつうらみかん満喫ウォーキング」を開催し、町のPRと特産物「熟成みかん」の情報発信により、交流人口の増加に貢献。
- 村の宝である子供たちに「食育&地産地消」のイベントを開催し、ふるさとの旬の農産物のおいしさや魅力を伝承。
- 令和3年12月に食品衛生法営業許可を取得。地元の野菜、果実等を使った商品「ふるさとの味」を開発し、産直市、道の駅等で順調に売上げを伸ばす。

応募団体からのアピール・メッセージ

スタートして3年目の取組だが、地元のおばちゃんの知恵と仲間と、ふるさとの味を継承していくとともに、「阿波かつうらブランド品」として、新商品の開発・シリーズ化の実現とふるさと納税返礼品への参入を目指し、地域活性化の一躍を担っていきたい。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡勝浦町大字三溪字古川1番地1 Tel:0885-42-3671

みち えき さと さいせい
道の駅ひなの里かつうら再生プロジェクト

～住民が輝く地域再生の拠点づくり～



園児のコスモス種まき



勝浦校3年生さつまいもの苗植え

経緯

- 平成23年3月に勝浦町の地域づくりの拠点、町の産業発展・観光振興に寄与することを目的に道の駅を設置。
- 行政から「交流人口増加対策」、地域住民から「耕作放棄地の景観問題の解消」をそれぞれ依頼され、課題の解決策として令和3年度より地域の協働を目的とした「808(ヤオハチ)農園プロジェクト」を企画した。

取組内容

- 地域の住民や農業者、学校、社会福祉団体等と連携し、ほ場整備、観光農園やひまわり・コスモス畑の管理、収穫祭での炊き出し等の活動に取り組む。
- 7、8月夏野菜の無料配布、8月ひまわり開花、9月かんしょ収穫体験、11月コスモス開花、12月じゃがいも農園無料開放等を実施。

活動の効果

- 地域協力の下「みちのえきマルシェ」、「防災フェスタ」や「恐竜フェスティバル」などを開催。また、小学生4学年合同の販売体験「こどもマルシェ」や「阿波かつうら音楽祭」など各種イベントの開催をサポートした結果、「808(ヤオハチ)農園プロジェクト」始動による来場効果もあり、令和4年度の道の駅の売上げは、令和2年度に比べ180%を達成。
- 交流人口の増加に伴い、地域の所得拡大に貢献したほか、当駅では新規雇用を実現。
- かんしょ(さつまいも)・夏野菜・ひまわり・コスモスを作付けることで、1,300㎡の耕作放棄地を再生。

応募団体からのアピール・メッセージ

ほ場の管理を継続し、農業高校生による野菜だけのビーガン向けオリジナルカレーの開発や社会福祉団体等と連携し「地域食堂」を企画するなど、関係者が地域活性化の一員として活躍できる下地を作り、町の総合戦略に沿った地域の協働体制を強化していく。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡勝浦町生名字月ノ瀬4-1 Tel:0885-44-0112

とくていひえいりかつどうほうじん さと げんき
特定非営利活動法人 郷の元気

～地域力を強化し生業を守る中間支援活動～



棚田オーナー制・早乙女



棚田×子供食堂による田植

経緯

- 「郷土」「故郷」を元気な姿で、後世に伝承していくためには、農山漁村と都市の人々が連携して、そこに眠る「宝」を再発見し、復元する「協働作業」が大切。
- まちづくり活動を推進させる力を「郷の元気」と考え、農山漁村における持続可能なまちづくりの活動を行うために、法人を設立。

取組内容

- 檜原の棚田等で、棚田オーナー制を実施することにより棚田保全、集落維持を支援。
- 高齢化による遊休農地増加や担い手不足の解消を目的として、檜原の棚田での「棚田キャンプ」、中津賀地区の棚田で「都市部の子供食堂連携」活動をスタート。
- 稲ワラを材料して製造される土壁材料のスサの伝統的製造保全のため、連携組織を構築しスサ保全中間支援PJをスタート。

活動の効果

- 民間自立型の棚田オーナー制の取組の一環で、収穫祭等の各種イベントを行い、令和4度までに9,300名の交流人口を獲得。
- 集落リーダーが集まる「やいたか」、複数の棚田活動をつなぐ「棚田未来づくり協議会」等の連携組織の起案・設立支援を行い、上勝町棚田地域の連携活動を実現。
- 八重地の棚田で、茅葺き古民家活動を行い、現在の「かみかつ茅葺き学校」自立を支援。※「やいたか」とは、八重地、市宇、田野々、檜原の棚田の頭文字から名付けたグループの名称。

応募団体からのアピール・メッセージ

上勝町での高齢化・遊休農地拡大の課題を活動資源と考え、棚田オーナー制、棚田キャンプの活動を継続。スサ保全活動は、周辺地域との連携を強化し徳島大学等の参画を得た活動を展開。

住所・電話番号・SNS等

勝浦郡上勝町大字川北字福原30番地 Tel:0885-46-0676 Facebook「郷の元気」

とくていひえいりかつどうほうじん さとやま
特定非営利活動法人 里山みらい

～“すだち”で里山をみらいへつなぐ～



研修の様子(摘果作業)



すだちアワードに投稿されたすだち料理

経緯

- 過疎化により失われつつある町の伝統や文化、自然環境などを未来へつなぐことを目的に活動を開始。
- 生産量日本一を誇るすだちをつなぎ役とし、都会と田舎に住む人と人が、お互いの暮らしを支え合うことで持続可能となる新たな関係性を目指し活動を開始。

取組内容

- 平成31年に神山町・JA名西郡・里山みらいの三者が協力して農業者の育成を行うための協定を結び、当法人が主体的に、農業次世代人材投資事業準備型の研修機関として研修生の受け入れを開始。
- すだちのPRと販路を拡大するため、“シェフと農家の美味しい出会い”をコンセプトにしたイベント(すだち遍路)やSNSを使ったキャンペーン(すだちアワード)を実施。

活動の効果

- 町内外から8名を研修生として受け入れ、そのうち5名は既に町内で就農している。就農時には、リタイアや規模縮小する農家の農地を受け継ぎ、産地を維持している。
- すだち遍路では、飲食店が創作したすだちメニューを提供してもらうことで、新たな使い方や、従来使わなかった飲食店での使用など、すだちの消費拡大につながった。
- すだちアワードでは、消費者からすだち料理を投稿をしてもらい、SNSで情報を拡散することで、使い方の提案や神山すだちファンの獲得につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

当町の農業を守るため、担い手の育成を続けるとともに、東京を中心に行ってきたPR活動を、今後は消費者との関係性を大切にしつつ全国に展開し、すだち食文化を全国に広めたい。

住所・電話番号・SNS等

名西郡神山町神領字本野間100 Tel:088-676-1118

奨励賞

とくていひえいりかつどうほうじん あかまつえんかほぞんかい
特定非営利活動法人 赤松煙火保存会

～できたん どしたん 吹筒花火～



奉納吹筒花火



奉納風景(「できたんどしたん」の掛け声とともに)



吹筒に火薬を詰め込む作業

経緯

- 赤松地区は過疎化と高齢化が著しく、約200年続く伝統ある吹筒花火の作り手が減少。その製造技法の衰退と赤松神社への奉納花火の継続が危惧されていた。
- 平成7年、有志により「赤松煙火保存会」を設立。平成25年、「赤松煙火保存会」を特定非営利活動法人として再構築し、担い手づくりと地域活性化に取り組む。

取組内容

- 地区内20の花火組ごとに製造技法が秘伝とされている吹筒花火の保存・継承のため、五穀豊穰と家内安全を祈願する赤松神社の奉納花火の継続活動に取り組む。
- 各種イベントでの吹筒花火の実演を通して花火の魅力を発信し、伝統文化への理解を深めてもらう活動を実施。
- 花火工場の維持管理、花火免許取得奨励、事故防止の保安教育などの活動に取り組む。

活動の効果

- 赤松神社の秋まつりに帰省する人や地域外から花火を観覧に来る人などで、毎年500人から800人の観覧客でにぎわい、毎年その人数は増加。
- 手造り吹筒花火の製作は、地域住民の共同作業を通して、住民相互のコミュニケーションが図られ、地域の活性化にもつながっている。これらを更に推進し、活力ある村づくりとするため、「赤松地区農村RMO推進協議会」に参加。
- 令和4年、吹筒花火が「阿波の吹筒花火」として徳島県無形民俗文化財に指定。

応募団体からのアピール・メッセージ

吹筒花火は、約200年の伝統と地元住民の手造りが特徴。点火され、吹き出す花火の下を若者が「できたん どしたん」の掛け声とともに、勇ましく駆け回る、全国の伝統花火の中でも珍しい光景である。是非、一度御覧ください。

住所・電話番号・SNS等

海部郡美波町赤松字総屋敷146-1 Tel:0884-79-3325

いん びとういーん ぶるーす

in Between Blues (iBB)

～空海藍がつなぐ故郷と世界～



上板町 藍師さん



inBetweenBlues 藍染作業



AWaiiALOHA

経緯

- サーファーとして世界を旅し、自然を大切にする様々な人々との出会いを重ね、故郷の「藍染文化」が人にも自然にも優しく互いの共存を支える素晴らしい文化と気付く。
- 波乗りを象徴する空と海、藍それぞれの美しき「青」をテーマにモノ創りを通して故郷の自然歴史文化の保全継承のため活動を開始。

取組内容

- モノ創りを通じた故郷の自然歴史文化の保全継承。
- 阿波藍や空海遍路など伝統文化とサーフ文化の融合。
- 空海藍をテーマに青でつながる徳島の魅力発信。
- 阿波藍文化の魅力(徳島の魅力)をLocal & Globalに発信。
- 地元の魅力発信による交流人口の創出。

活動の効果

- 県内の呉服屋と共同で、令和5年夏よりオリジナルブランドAWaiiALOHAをプロデュース。アロハシャツを、阿波藍や麻など阿波文化に縁の深い天然素材+地元シャツ職人のハンドクラフト+地元デザイナーのブランドロゴなどMade in Tokushimaをベースに製作。加えて、美術家の野老朝雄氏や京都の捺染技術など世界的なクリエイターや職人と連携しGlocallyなモノづくりを実践。
- 阿波踊り期間にPOPUPイベントを開催し、全国から300名を超える来場。環境省の森里川海プロジェクト関連イベントとして認可され、伝統文化と環境問題をつなげて発信。

応募団体からのアピール・メッセージ

本年は、インバウンドが著しく回復し、大阪・関西万博に向け国際交流の機運が高まりを見せている。この機に、ローカル(内面)探求がグローバル(世界)につながることを教えてくれた空海藍を世界と地域と後世に伝える絶好の好機と捉え、今後も精進していく。

住所・電話番号・SNS等

海部郡海陽町穴喰浦字松原216-3 Tel:0884-70-1488

合同会社みつぐるま

～海山川、世界をつなぐ故郷の祭と祈り～



日本の滝100選・轟の滝



轟神社秋例大祭

徳島大学建築サークルによる
轟神社リノベーションプロジェクト

経緯

- 400年以上にわたり守られてきた轟本滝神社と秋例大祭が、1次産業の衰退とともに担い手を失い、存続の危機にひんしていたが、その状況を憂いた若手が活動開始。
- 人的、金銭的にその運営・活動を支援し保全継承を目的に合同会社を立ち上げ、米づくりから携わる御神酒プロジェクトや文化庁事業など様々な活動に取り組む。

取組内容

- 轟神社及び海部川流域(轟の滝から海部川河口、鞆浦漁港)の1次産業振興支援。
- 日本の文化経済発展を海部の林業、造船等が支えた歴史的背景の再考と発信。
- 轟神社御神酒とその酒粕を再利用した粕取り焼酎プロジェクト。
- ダイドーグループ日本の祭りシリーズに轟神社秋季例大祭が選出され番組を制作。
- 徳島大学建築サークルとの轟神社の環境改善共同プロジェクト。

活動の効果

- 御神酒プロジェクトの成功で海陽町の“米・水・塩”など土地の産物への注目度が向上。本年からは粕取り焼酎もラインナップに加え、今後は米焼酎やクラフトビール製造に挑戦し、既存の農作物や水産物の認知度・価値向上及び需要向上に貢献。
- 徳島大学建築サークルとの連携による建屋修繕活動が始まり、地域の若い世代との交流が今後更に深まることが期待でき、世代を超えた活動の共感・支持者の増加につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

故郷「海部」の豊かな自然環境と、先人たちが継承してきた農林水産業や多様な文化、叡智の価値と、それらを伝えるために守られてきた神社や祭りの大切さを、より良い形で地域や国内外の人々、そして後世に伝えるために日々活動している。

住所・電話番号・SNS等

海部郡海陽町奥浦字町内200 Tel:0884-70-5888

特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金

～コウノトリが舞う 笑顔輝く未来に～



耕作放棄地をビオトープに整備する作業



ビオトープ米でお酒を造るPJの田植え

経緯

- 鳴門市を中心とした農村地帯に、特別天然記念物であるコウノトリが定着・繁殖。
- 農村密着して生活するコウノトリの環境を豊かなものとするとともに、地域の農業、経済、社会を元気にするため、令和元年にNPO法人とくしまコウノトリ基金を立ち上げ、活動を開始。

取組内容

- 耕作放棄地をビオトープに再生し、コウノトリの餌場となる水田で農薬・化学肥料を低減した特別栽培米を栽培し、これを用いた日本酒を製造するプロジェクトを主導。コウノトリを起点とした関係者間での地域資源とお金の循環システムを構築。
- ビオトープを活用し、小学生を対象としたコウノトリが生息する水田環境の学習や、大学生、生協組合員を対象とした農薬・化学肥料に頼らない稲作体験を実施。

活動の効果

- 耕作放棄地を活用したビオトープの面積は、70a(令和元年度)から464a(令和4年度)と約7倍に増加しており、耕作放棄地の活用が促進。
- 環境学習への参加者は、16名(令和3年度)から27名(令和5年度)に増加見込み。また、大学生等による農薬・化学肥料に頼らない稲作体験についても、30名(令和4年度)から80名(令和5年度)に増加見込みであり、自然環境の保護やグリーンな稲作への理解を促進。

応募団体からのアピール・メッセージ

耕作放棄地のビオトープへの再生を拡大するとともに、防災・減災機能を持つビオトープの整備を行いたい。域内の米やレンコン農家、地元企業との連携を深め、地域の農業や社会の活性化を目指す。

住所・電話番号・SNS等

徳島県板野郡北島町中村字岸ノ上1-288